

学 校 名	山形市立蔵王第一中学校	校 長	庄司 雅和
		研究主任	黒田 吉彦
研 究 主 題	他とかかわりながら学びを深め、 表現する生徒の育成(2年次) ～生徒の見取りを生かして～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>昨年度までの研究では、思考ツールを活用し、各教科様々な形で思考を可視化する活動を充実させることができた。しかし、可視化や思考ツールを使うことが目的となってしまう、生徒の学びの深まりにまで指導が到達することができない教科もあった。また、まとめ・振り返りの言語化や評価については、手探りの部分が多かった。さらに、諸調査によると、本校の全国平均を下回っている項目には、「学校に行くのが楽しい」「先生は自分を認めてくれている」「自分にはよいところがある」などがあつた。</p> <p>生徒が学校で過ごす時間のうち、多くを占めるのは学校の授業時間である。授業内容がわかったという充実感を得ることや仲間と一緒に課題を探究し解決する過程が「楽しさ」につながると考える。また、私たちが生徒の学びの様子をつぶさに見取り、どんなときに生徒が考えを深めたり、探究的に活動に取り組んだり、課題に向き合えなかつたりするのか、その知見を職員間で共有し深めていくことが、本校の課題を解決する一助になると考える。そのために、生徒の見取りを研究の柱とし、生徒が仲間と学びあう環境を積極的に作り、また教員がどのように生徒が学び考えを深めていたのか、職員間で語り合える風土をつくっていききたい。さらに、生徒の小さな成果を見逃さず、教師が認めていきたい。</p>		
研 究 の 目 標	<p>各教科の特性や本質を生かし、「わかる授業」「深い学び」につなげるための授業改善を進める。また、職員間で生徒の学びに対する知見を蓄積していく。</p> <p>◇目指す生徒の姿 他とかかわりながら学びを深め、表現する生徒</p> <p>◆つきたい力 (1) 他者と一緒に課題を考えられる、かかわる力 (2) 粘り強く学びに向かう力 (3) 課題に対して自分の考えを整理し、成長や変容を言葉で振り返る力</p>		

<p>研究の内容</p>	<p>◎評価の視点の明確化 生徒は「なに」ができるようになればいいのか・生徒は「なに」に気づけばいいのかなど、評価観点を明らかにする。 →単元（題材）計画の評価の視点（生徒にとってのゴール・達成目標）を提示する。 →評価とフィードバック 評価して返却だけでなく、次のチャンスを伝える。 →A・B・C評価の規準をしっかりと決める。C→Bへ、B→Aの手立てを考える。</p> <p>◎生徒の見取り 生徒が学びを持続した背景や学びに入ったきっかけの知見を深める。 →授業者、授業参観者が教室の生徒の学びの様子を詳細に見取り、職員間で共有する。 →各教科における思考を深めるための手立てを試行錯誤する。 単元や本時に必要な思考ツールを活用するなどし、生徒の学びの深まりやまとめを充実させる。 思考ツールの例…イメージマップ・ステップチャート・フィッシュボーン・クラゲチャート・マトリックス・タブレットの学びポケット・タブレット画面の共有など</p>
<p>研究の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のアンケート実施(対象：生徒・教師、内容：学びの認識について) [1学期中ごろ、2学期末] ・年2回の校内授業研究会 ・年2回の校内研修会 [1学期、夏休み] ・年間を通した公開授業
<p>研究の計画</p>	<p>4月 7日 校内研修会①（令和5年度の校内研究概要の説明と各教科の重点の検討） 4月20日 校内研修会②（蔵王一中の生徒の分析 課題意識の共有） 6月 公開授業強化月間① 7月13日 校内授業研究会①（授業者：黒田） 7月27日 校内研修会③（評価について）外部講師招へい予定 （山形大学大学院教育実践研究科 鈴木貴子准教授） 10月 公開授業強化月間② 11月13日 校内授業研究会②（授業者：未定） 公開授業強化月間③ 2月 研究のまとめ</p>